



一中の風

No. 1

小金井市立小金井第一中学校 学校だより

「私にできることは小さなこと。
でも感謝してできたらきっと大きなことだ。」 (星野富弘)

校長 門脇 利種

皆さんにお願いがあります。自分のタブレットを利用して調べて欲しいことがあります。それは星野富弘さんという方の描いた作品をぜひ見て欲しいのです。実は星野さんは花の絵をたくさん描いています。しかし、一枚の絵を描き上げるのに2週間ぐらいかかるそうです。なぜだと思いますか。



星野さんは、昔は中学校の保健体育の先生でした。ところが勤めはじめた20代のときに、部活動の指導中に大きなケガをして手足の自由を失ってしまいました。手足を自由に動かせなくなった星野さんは、どうやって絵を描いたかという、口に筆を加えて絵や文字を描(書)いているのです。ですから、どんなに無理をしても一日に描ける時間は2時間程度なのです。それで時間がかかってしまうのです。星野さんは一つ一つの絵に詩を添えているのですが、皆さんに実は調べて知って欲しかったのは、この詩の言葉が大切なことを教えてくれたからです。

「私にできることは小さなこと。でも、それを感謝してできたらきっと大きなことだ」。

星野さんは一枚の絵を描くのにかかるたくさんの時間を使います。どんな色をどのように筆につけるかは、星野さんが奥さんに細かく話してやってもらいます。思ったとおり色になるまで何度もやり直します。奥様が仕事で手伝えなときには星野さんのお母さんが変わり、星野さんの弟夫婦や妹夫婦がそれをすることもあります。そうやってできあがる絵なのです。だから皆さんには画像でも良いのでぜひ見てほしいと思いました。

元保健体育の先生だった星野さんですから、手足が不自由になり動かせなくなったときは、言葉に表せないほど辛かったと思います。ですから、家族にはつい文句を言うこともあったようです。星野さんの詩にこんな言葉があります。

「鏡に映る顔を見ながら思った。もう悪口を言うのはやめよう。私の口から出た言葉を一番近くで聞くのは私の耳だから」。

皆さんもつらいときや嫌なことがあったときに、つい友達や家族にあたって文句を言ったことがありますか。私にはあります。星野さんと同じだったのではないのでしょうか。そんな自分を反省して星野さんはこのような詩を書いたのです。そして、手足を自由に動かせなくなり、自分にできることは小さく限られているけれども、周りの人に感謝して行うことが大切であると気づき、それができたらとても大きいことだと分かったのだと思います。スポーツ選手へのインタビューで、どの選手にも共通していることは、自分を支えてくれた人たちへの感謝をしていることです。おそらく、そうした選手も最初からそうだったわけではなく、さまざまな苦しい経験を繰り返すなかで自分を見つめ、人に感謝することの大切さがわかったのだと思います。

これからの皆さんの人生において、どんな小さなことでも自分一人でできることはほとんどないと思います。時につらいときがありますが、そんなときこそ、星野富弘さんの言葉を思い出してください。